

安全データシート

(SAFETY DATA SHEET)

作成日 2019年11月07日
管理コード 19Jul23-002

1. 化学品及び会社情報

正規輸入元	化学品の名称	ポリスマグナム OC-17(ディフェンス・スプレー)
	製品コード	444、481、4182、400、440、460
	供給者の会社名	株式会社ティエムエムトレーディング
	住所	福岡県北九州市小倉北区金田2丁目2-1 金田ビル4F
	電話番号	093-583-1026
	推奨用途及び使用上の制限	防犯・護身のため
	製品重量(kg)	0.012~0.25(kg)
製品容量(mL)	15~270(ml)	

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性	エアゾール 区分3 自然発火性液体 区分外 自己発熱性化学品 区分外
健康有害性	急性毒性(経口) 区分外 急性毒性(経皮) 区分外 急性毒性(吸入:気体) 区分外 皮膚腐食性及び刺激性 区分2 眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 区分2A 特定標的臓器毒性(単回ばく露) 区分3(気道刺激性) 特定標的臓器毒性(単回ばく露) 区分3(麻酔作用) 上記で記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない。 GHS改訂4版(パープルブック改訂4版)の解説(3. 1. 3. 5. 7等)に基づき、本シートでは、噴射ガスと非ガス成分(噴射ガス以外の成分)を分け、各々における成分含有率に置き換えて別個に実施し、その分類結果を表示した。

GHSラベル要素

絵表示

注意喚起語
危険有害性情報

警告
 高圧容器:熱すると破裂のおそれ
 皮膚刺激
 強い眼刺激
 呼吸器への刺激のおそれ
 眠気又はめまいのおそれ

注意書き
安全対策

熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。禁煙。
 使用後を含め、穴をあけたり燃したりしないこと。

<p>応急措置</p>	<p>呼吸器保護具、保護手袋、保護眼鏡、保護衣、保護面を着用すること。</p> <p>ガス、ミスト、蒸気、スプレーの吸入を避けること。</p> <p>取扱い後は手をよく洗うこと。</p> <p>屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。</p> <p>吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。</p> <p>呼吸が停止している場合は人工呼吸を行う。呼吸困難の場合は酸素吸入を行う。</p> <p>気分が悪い時は、医師に連絡すること。</p> <p>皮膚に付着した場合、多量の水と石鹼で洗うこと。</p> <p>皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。</p>
<p>保管</p>	<p>汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。</p> <p>眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。</p> <p>眼の刺激が続く場合、医師の診断、手当てを受けること。</p> <p>容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。</p> <p>施錠して保管すること。</p>
<p>廃棄</p>	<p>日光から遮断し、50℃以上の温度にばく露しないこと。</p> <p>内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。</p>

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別

混合物

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学式	官報公示整理番号		CAS番号
			化審法	安衛法	
窒素	0.4%	N2	対象外(元素)	既存	7727-37-9
水	40~60%	H2O	対象外(天然物)	既存	7732-18-5
ジプロピレングリコールモノメチルエーテル	30~50%	CH3OC3H6OC3H6OH	(2)-426	既存	34590-94-8
トウガラシオレオレジン	10%	特定できない	対象外(天然物)	既存	8023-77-6

分類に寄与する不純物及び安定化添加物

情報なし

労働安全衛生法

名称等を通知すべき危険物及び有害物 1-(2-メトキシ-2-メチルエトキシ)-2-プロパノール(政令番号:601)(40%~50%)号、第2号別表第9)

4. 応急措置

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

呼吸が停止している場合は人工呼吸を行う。呼吸困難の場合は酸素吸入を行う。

皮膚に付着した場合

気分が悪い時は、医師に連絡すること。

汚染された衣類を脱ぎ、皮膚を速やかに多量の水と石鹼で洗浄すること。

皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。

眼に入った場合

汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。
水で最低15分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

飲み込んだ場合

眼の刺激が持続する場合、医師の診断、手当てを受けること。
口をすすぐこと。無理に吐かせない。
意識があるときは水を与える。意識が無いときは何も与えない。
医師に連絡すること。

5. 火災時の措置

消火剤

小火災:粉末消火剤、二酸化炭素、水噴霧、一般の泡消火剤、乾燥砂。

特有の危険有害性

大火災:水噴霧、一般の泡消火剤。
燃えるが、容易に発火するものではない。
熱で容器が爆発するおそれがある。
吸入すると有害となるおそれがある。
接触により皮膚や眼に炎症を起こすおそれがある。
火災時に刺激性、腐食性及び／又は毒性のガスを発生するおそれがある。

特有の消火方法

めまいや窒息を引き起こす蒸気を発生するものがある。
危険でなければ火災区域から容器を移動する。
消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
安全弁から音が発生したり、タンクが変色したときは直ちに避難する。
火災に巻き込まれたタンクから常に離れる。
容器内に水を入れてはいけない。
消火活動は、有効に行える最も遠い距離から、無人ホース保持具やモニター付きノズルを用いて消火する。
ガスの流出を遮断してから消火を試みる。ガスは爆発混合物を形成し再着火することがある。
ガス流を効果的にすぐに遮断することができない場合には、爆発性蒸気が生成するかもしれないので、消火してはならない。

消火を行う者の保護

空気式呼吸器（SCBA）を着用する。
防火服は火災時に限られた防護をするに過ぎない。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。
直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。
関係者以外は近づけない。
風上に留まる。
作業者は適切な保護具(8. ばく露防止及び保護措置の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。
漏洩しても火災が発生していない場合、密閉性の高い、不透性の保護衣を着用する。
低地から離れる。
立ち入る前に、密閉された場所を換気する。

環境に対する注意事項

河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。

排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

環境中に放出してはならない。

封じ込め及び浄化の方法・機材

漏洩物を取り扱うとき用いるすべての設備は接地し、工具は火花防止型を用いる。

火気注意。すべての発火源を取り除く。

少量の場合、砂あるいは不燃性吸収材を用いて集め、容器に入れて後で廃棄する。

大量の場合、液体の前方にせきを作り、後で廃棄する。

危険でなければ漏れを止める。

可能ならば、漏洩している容器を回転させ、液体でなく気体が放出するようにする。

容器を冷却して蒸発を抑え、発生した蒸気雲を分散させるため散水を行う。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

安全取扱注意事項

裸火又は高温の白熱体に噴霧しないこと。

加圧容器は使用後穴をあけたり燃したりしないこと。

加圧ガスを含有し、熱すると爆発のおそれがある。

防爆型の電気機器、換気装置、照明機器等を使用すること。

火花を発生させない工具を使用すること。

静電気放電に対する予防措置を講ずること。

容器は丁寧に取り扱い、衝撃を与えたり、転倒させない。

接触、吸入又は飲み込まないこと。

眼に入れないこと。

空気中の濃度を暴露限度以下に保つために排気用の換気を行うこと。

屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。

取扱い後は手をよく洗うこと。

接触回避

『10. 安定性及び反応性』を参照。

衛生対策

取扱い後はよく手を洗うこと。

保管

安全な保管条件

使い終わった容器は、穴をあけたり燃やしたりしないこと。

容器は直射日光や火気を避け、50℃以下の温度で保管すること。

保管場所には危険物を貯蔵し又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。

容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。

施錠して保管すること。

安全な容器包装材料

消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

8. ばく露防止及び保護措置

	管理濃度	許容濃度(ばく露限界値、生物学的ばく露指標)	
		日本産衛学会 (2018年版)	ACGIH (2017年版)

窒素	未設定	未設定	See Appendix F:minimal Oxygen Content(Simple asphyxiant)
水	未設定	未設定	未設定
ジプロピレングリコールモノメチルエーテル	未設定	未設定	TWA 100ppm STEL 150ppm
トウガラシオレオレジン	未設定	未設定	未設定

設備対策

本製品を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。

局所排気装置を設置する。

保護具

呼吸器の保護具

換気が不十分な場合には、適切な呼吸器保護具を着用すること。

送気マスク、空気呼吸器、酸素呼吸器又は防じんフィルター付き有機ガス用防毒マスクを着用すること。

手の保護具

保護手袋を着用すること。

耐油、化学品防護手袋

眼の保護具

眼の保護具を着用すること。

保護眼鏡(側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)

皮膚及び身体の保護具

保護衣、保護面を着用すること。

9. 物理的及び化学的性質

外観

物理的状態

エアゾール

形状

エアゾール缶(噴出物はミスト状)

色

琥珀色

臭い

辛い刺激臭

臭いのしきい(閾)値

データなし

pH

4.5 ~ 6

融点・凝固点

データなし

沸点、初留点及び沸騰範囲

100 ~ 190°C

引火点

85°C(測定方法:不明)

蒸発速度(酢酸ブチル=1)

データなし

燃焼性(固体、気体)

適用されない

燃焼又は爆発範囲

データなし

蒸気圧

データなし

蒸気密度(空気=1)

データなし

比重(密度)

0.97

溶解度

水に易溶

n-オクタノール/水分配係数

データなし

自然発火温度

データなし

分解温度

データなし

粘度(粘性率)

データなし

容器内圧

0.77MPa(50°C)

燃焼熱量

<20kJ/g(計算値 8.25 ~ 13.75 kJ/g)

10. 安定性及び反応性

反応性

強酸化剤と反応する。

化学的安定性

通常の保管および取扱いの条件においては安定である

危険有害反応可能性

加熱されたり、火災に巻き込まれると、危険な重合反応がおこるおそれがある。

避けるべき条件

直射日光、極端な高温と低温、炎、火花、裸火、熱源、過熱、その他発火源、静電気火花、静電気、50°C以上の環境。

混触危険物質

強酸化剤。

危険有害な分解生成物

熱分解又は燃焼により、一酸化炭素、二酸化炭素、窒素酸化物、種々の炭化水素類及びフェウムを発生する。

11. 有害性情報

急性毒性

経口

成分の急性毒性値は、水 >100000mg/kg、ジプロピレングリコールモノメチルエーテル 5180mg/kg、トウガラシオレオレジン >3000mg/kgであり、混合物の急性毒性推定値が9748.02mg/kgのため、GHS:区分外に該当する。

経皮

成分の急性毒性値は、水 >100000mg/kg、ジプロピレングリコールモノメチルエーテル 9500mg/kg、トウガラシオレオレジン >2500mg/kgであり、混合物の急性毒性推定値が14852.3mg/kgのため、GHS:区分外に該当する。

吸入(気体)

成分の急性毒性値は、窒素 >50000ppmであり、混合物の急性毒性推定値が50001ppmのため、GHS:区分外に該当する。

吸入(蒸気)

データ不足のため分類できない。

吸入(ミスト)

データ不足のため分類できない。

皮膚腐食性及び刺激性

トウガラシオレオレジンが区分2で、区分2の成分濃度の合計が濃度限界(10%)以上のため、GHS:区分2「皮膚刺激」に該当する。

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性

GHS:H319(株式会社ティエムエムトレーディング “Police Magnum OC-17 Defense Spray(AEROSOL)” SDS(作成年月日:2017年6月28日))により、GHS:区分2A「強い眼刺激」に該当する。

呼吸器感作性

データ不足のため分類できない。

皮膚感作性

データ不足のため分類できない。

生殖細胞変異原性

データ不足のため分類できない。

発がん性

データ不足のため分類できない。

生殖毒性

データ不足のため分類できない。

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

ジプロピレングリコールモノメチルエーテルが区分3(気道刺激性)で、成分濃度合計が濃度限界(20%)以上のため、GHS:区分3(気道刺激性)「呼吸器への刺激のおそれ」に該当する。

ジプロピレングリコールモノメチルエーテルが区分3(麻酔作用)で、成分濃度合計が濃度限界(20%)以上のため、GHS:区分3(麻酔作用)「眠気又はめまいのおそれ」に該当する。

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

データ不足のため分類できない。

吸引性呼吸器有害性

データ不足のため分類できない。

12. 環境影響情報

水生環境有害性(急性)

データ不足のため分類できない。

水生環境有害性(長期間)

データ不足のため分類できない。

オゾン層への有害性

モントリオール議定書の附属書に列記されたオゾン層破壊物質を含まないため分類されない。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

エアゾール製品は高圧ガス保安法適用除外ですが、廃棄する場合は、高圧ガス保安法一般高圧ガス保安規則の規定を参照すること。

廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。

汚染容器及び包装

都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。

廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。

容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

スプレー缶を廃棄する場合は、自治体により廃棄方法が異なるので該当する自治体の規定に従うこと。

14. 輸送上の注意

国際規則

Regulatory Information by Sea	—
UN No.	—
Proper Shipping Name	—
Class	—
Packing Group	—
Marine Pollutant	—
Harmful Liquid Substances	—
Regulatory Information by Air	Complied with ICAO/IATA.
UN No.	8000
Proper Shipping Name	Consumer commodity
Class	9
Packing Group	—

国内規制

陸上規制	消防法の規定に従う。
海上規制情報	—
国連番号	—
品名	—
クラス	—
容器等級	—
海洋汚染物質	—
有害液体物質	—
航空規制情報	航空法の規定に従う。
国連番号	8000
品名	日用品
クラス	9
等級	—

特別の安全対策

輸送の前に容器の破損、腐食、漏れ等のないことを確かめる。

危険物は当該危険物が転落し、又は危険物を収納した運搬容器が落下し、転倒しもしくは破損しないように積載すること。

移動の際に、転倒、衝撃、摩擦、圧壊、漏洩などを生じないようにする。

輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れを生じないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。

運搬中の事故等により災害が発生した場合は、もよりの消防機関その他の関係機関に通報すること。

重量物を上積みしない。

輸送時にイエローカードを携帯する。

171

緊急時応急措置指針番号

15. 適用法令

労働安全衛生法

名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2、施行令第18条の2第1号、第2号別表第9)(1-(2-メトキシ-2-メチルエトキシ)-2-プロパノール)

名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条第1項、施行令第18条第1号、第2号別表第9)(1-(2-メトキシ-2-メチルエトキシ)-2-プロパノール)

消防法

第4類引火性液体、第三石油類水溶性液体(法第2条第7項危険物別表第1)

船舶安全法

有害性物質(危規則第3条危険物告示別表第1)

航空法

その他の有害物件(施行規則第194条危険物告示別表第1)

16. その他の情報

連絡先

株式会社ティエムエムトレーディング

参考文献

NITE GHS分類公表データ

RTECS

ECHA C&L Inventory Database

ECHA Registered substances Database

株式会社ティエムエムトレーディング“Police Magnum OC-17 Defense Spray(AEROSOL)” SDS(作成年月日:2017年6月28日)

記載内容は、一般に入手可能な情報及び自社情報に基づいて作成しておりますが、現時点における化学又は技術に関する全ての情報が検討されているわけではありませんので、いかなる保証をなすものではありません。又、注意事項は、通常取り扱いを対象としたものであります。特殊な取り扱いの場合には、この点のご配慮をお願いします。